



謹賀新年



# 西川 ひとし

会派・自民党連合・創生  
奈良県議会議員（葛城市選挙区）

## 178億円の補正予算

12月  
議会

改めまして新年明けましておめでとうございます。令和5年が始まりました。今年はいよいよ統一地方選！皆様のご期待に添えるよう、精一杯頑張ります。また、態度を保留していた荒井知事が5選めざしての出馬表明もあり、今年には奈良県の今後を占う、とても重要な一年となります。一方、昨年12月の定例会ではコロナ対策、物価対策としてさらに178億円の補正予算が承認されており、そして私なりに荒井正吾知事の4期16年をふり返ってみます。

◇ 12月1日に開会した県議会の12月定例会では、9月定例会に引き続いて物価高や新型コロナの対策費などの補正予算が上程され、一般会計の総額で178億円余りの補正予算案が成立しました。その他の議案も原案通り承認・可決されました。なお、今回の議会では、荒井知事に対し来年4月の知事選挙への対応について代表質問がありました。が、「熟慮したい」と述べるにとどまり、立候補に向けた意向は明らかにしていませんでした。

そして年が明けて4日の年頭記者会見でついに出馬を表明しました。知事の年齢、多選といったことから、再出馬はないと思っていた方々の出鼻をくじく格好となり、4月の知事選は俄かに活気づいてきました。荒井知事の5選に向けた出馬について、ネット上では知事の高齢（77歳）を不安視する声があがっています。いま、荒井知事は全国で2番目に高齢だそうです。ちなみにトップは大分県の広瀬勝貞知事の80歳ですが、今春の知事選に

出馬しない意向ということ。もちろん若返りを期待するだけでなく、荒井県政そのものを批判する声もあがっています。特に歴史的観光資源は京都を上回りながら活用できてないという指摘、あるいは県全体として観光客を受け入れる気がないなどといった手厳しい声もありました。なかには県庁が北の端にあるのがいけないと、私と同意見も散見されました。

荒井知事の思いは県ホームページにUPしている年頭所感から見てとれます。特に大阪のベッドタウンとして発展してきた奈良県ですが、企業誘致等の取組みによって県外就業率が低下したということです。かつては全国1位だった県外就業率（33%）は、27%に減り、全国3位となったそうです。県内就業が増えたことをアピールされております。さらに県内工場立地件数の増加は近畿で2位、全国9位に上昇し、県内有効求人倍率は近畿1位になったことを報告しています。

そして今年はいよいよリニア中央新幹線の「奈良市附近駅」が現実のものとなろうとしています。岸田総理から直々に駅ルートの確定に特段の働きをするようにとの指示・激励があったとのこと。リニア中央新幹線

の「奈良市附近駅」を確実にするのに、今年はとても重要な年になってきています」と述べているように、荒井知事からすればまだやることがある、ということなのでしょう。

また、「五條市の大規模広域防災拠点、スポーツと食と農が融合するウェルネスタウンをテーマとする拠点整備など、大和平野中央田園都市建設なども楽しみ」と述べています。

荒井知事の4期16年の評価は人によって当然分かれることと思いますが、一方で奈良独自の取組みである「奈良モデル」をはじめ、マリオートホテルの誘致と国際コンベンション会場の建設、平城宮跡歴史公園など、歴代の知事と比べるとその活動は際立っているといえます。これをよくやったと評価するのか、違う人がやればもっとうまくいったとなるのか。いずれにしても「たられば論」ではありません。

しかし確実にいえることがあります。わが葛城地域をはじめとした地域の振興はあまり進んでいると感じません。相変わらず北に偏った施策が多いと感じます。北部に人口が多いから北部を中心とした事業が多いのは仕方ない、ではなく、県全体の活性化を見据えた施策、人の動きなども見据えて、県庁を県の中心部に移転することが大事だというのが私の考えです。もちろん県民の皆様がどのような判断、いや意志を示されるかも興味深いところ。です。

## 荒井知事は5選を めざして出馬表明

# 県政HOTニュース

## 荒井知事出馬により 知事選は保守分裂？

表面で紹介した通り、荒井知事は4日の年頭記者会見で、任期満了に伴う4月の知事選に5回目の当選を目指して無所属で立候補する意向を表明し、自民党奈良県連に推薦を申請しました。しかし、知事選には元総務官僚の平木省さん(48)も出馬表明し、自民に推薦を求めていることから、保守分裂となる可能性が出ております。

知事選への出馬表明は2人目となり、日本維新の会と共産党もそれぞれ候補者の擁立を検討しているらしいとのこと。荒井知事は、県内設置方針のリニア中央新幹線駅整備に触れ「次の4年のかじ取りは極めて大事だ」と強調。自民以外の政党にも支援を呼びかける考えを示しています。

## 20歳の新成人は 1万3121人

奈良県の今年の新成人は住民基本台帳から20歳が1万3121人、18歳が1万2587人だったことが分かりました。昨年4月に、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ初めて迎えた「成人の日」になります。NHKが調査した県内12の市に式典への対応は、すべての市がこれまでと同じように、今年度は20歳となる人を対象に行うと答えたそうです。その理由について、18歳は高校在学中の人も多く、学業などへの影響を考慮したためなどとしています。また、これまでの「成人式」という式典

の名称は、「二十歳のつどい」や「二十歳を祝う会」などに変更するということです。

## 交通機関に支援金

県は燃料価格高騰等に伴う経営環境の変化による影響を緩和し、県民の日常生活及び社会生活を支える「奈良県地域公共交通事業者燃料価格高騰対策等支援金」を実施する。地域公共交通の維持・充実に努めるため、バスやタクシーなど県内の公共交通事業者に対し、支援金を交付するもの。支援金額は路線バス車両1台あたり16万円。貸切バス車両1台あたり16万円。タクシー車両1台あたり9万円。

## 28団体が参加 県域水道一本化

県は首長としての県域水道一体化参加不参加の回答をとりまとめました。昨年の12月26日を回答期限として各団体の長あてに行いました照会に対する回答のとりまとめ結果は次の通りとなります。

▽県域水道一体化に「参加する」と回答(28団体) 奈良県、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、生駒市、香芝市、宇陀市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、吉野町、大淀町、下市町、奈良広域水質検査センター

組合

▽県域水道一体化に「参加しない」と回答(1団体) 葛城市

※奈良市は不参加の模様

## 奈良県の人口

奈良県の人口(昨年11月)は130万4千564人でした。自然増減△880人、社会増減55人となっています。総世帯数は55万1千883世帯となっています。

## 奈良の宝物グランプリ

奈良県の宝物グランプリの審査が昨年12月に行われ、結果が発表されました。今年度の奈良県の宝物グランプリでは、「素材・加工部門」「体験・雑貨部門」の2部門に計10組21事業者がエントリーし、宝物セミナーに参加した事業者が新商品やコラボ商品等を披露しました。

【グランプリ】▽素材・加工部門Ⅱこんにゃくいなり寿司▽体験・雑貨部門Ⅱ大和の香り体験 7味手づくりキット



2023年の干支は「癸卯(みずのと・う)」

「癸」は物事の終わりと始まりを意味する他、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子が計ることが出来るほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われています。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされています。癸卯には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった意味があります。ぜひ皆様にとりまして縁起のよい1年になりますよう、お祈りいたします。



県政に関する疑問や質問は、西川ひとしにお寄せください。

〒639-2141 葛城市弁之庄58-2  
TEL:0745-69-1234 FAX:0745-69-7891

